Press Release　　JISHA 中災防

報道関係者各位

令和５年３月２９日

9月に「全国産業安全衛生大会 in 名古屋」を開催します

～特別講演はスポーツ庁長官の室伏広治氏に決定！～

中央労働災害防止協会（略称：中災防、会長 十倉雅和・日本経済団体連合会会長）は、令和５年９月 27 日（水）～29 日（金）に愛知県名古屋市で開催する「第 82 回全国産業安全衛生大会」（会場：ポートメッセなごや）の概要および主な講演者を決定しました。

今回のテーマは「名古屋の地で掲げよう　安全・健康の旗印」です。名古屋での開催は平成 27 年以来、８年ぶりで、会期中は全国の企業・団体等から 10,000 人の参加を見込んでいます。

初日の総合集会ではスポーツ庁長官の室伏広治氏が特別講演を行います。「スポーツで未来を創る～ライフパフォーマンスの向上のためにスポーツが果たす役割～」と題し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会によってもたらされたスポーツ・レガシーを今後いかに継承・発展させていくかについて講演いただきます。

２日目、３日目の分科会では有識者による専門的な講演 40 本のほか、今日的な課題をテーマにしたシンポジウム、職場の労働災害防止や健康づくり等に取り組む企業・団体による研究発表を 140 本予定しています。

＜予定している講演等の内容（一部）＞

- 今後施行を迎える化学物質の自律的管理規制に係る講演
  独立行政法人労働者健康安全機構　労働安全衛生総合研究所　化学物質情報管理研究センター長　城内 博氏
- 安全文化診断を活用した安全文化醸成に係る講演
  国立大学法人　新潟大学工学部協創経営プログラム　准教授　東瀬 朗氏
- シンポジウム「安全経営あいち®」
- 愛知県下各労働基準協会の役員企業担当者・役職員による労働劇

今年は、中災防が提唱するゼロ災害全員参加運動（ゼロ災運動）が 50 周年を迎えます。50 年の歩みを経て職場での新たな課題、ニーズに対応した新たなゼロ災運動の普及を目指し、情報発信を行います。

（裏面に続く）

なお、講演やシンポジウムの情報は、特設ウェブサイトにおいて、決定次第公表していきます。
分科会の構成（予定）は次のとおりです。

全国産業安全衛生大会 分科会構成

（１） 安全管理活動分科会（第１～第３）
（２） 安全衛生教育分科会
（３） ゼロ災運動分科会
（４） 労働衛生管理活動分科会
（５） 化学物質管理活動分科会
（６） メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会
（７） マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会
（８） 機械・設備等の安全分科会
（９） DX 等分科会
（10） 労働劇

※ 参加申し込みの特典として、特設ウェブサイトにてオンライン限定プログラム（現地プログラムとは異なるもの）を、約 30 本視聴可能とします。

また、国内最大の保護具・機器の展示会「緑十字展(りょくじゅうじてん)2023－働く人の安心づくりフェアー」を、同じくポートメッセなごやにおいて同時開催します。入場無料で、会期中は約 12,000 人の来場を見込んでいます。今年は特別企画展「防ごう！フォークリフト災害」をテーマにフォークリフト災害防止に役立つ情報を発信します。

［全国産業安全衛生大会・緑十字展については別紙もご覧ください］

［全国産業安全衛生大会特設ウェブサイト］
５月上旬オープン予定！
https://www.jisha.or.jp/taikai/2023/index.html

※この資料は、名古屋経済記者クラブ、厚生労働記者会、労政記者クラブ、厚生日比谷クラブ、鉄鋼研究会、自動車産業記者会に配布しています。

【担　当】 中央労働災害防止協会
教育ゼロ災推進部　部　長　八木　健一
【照会先】 総務部　広報課長　結城　ゆり
（電　話）　03-3452-6542　（e-mail）　koho@jisha.or.jp

全国産業安全衛生大会の誕生とあゆみ

◆　昭和７年、第１回『全国産業安全大会』　東京で開催

第１回の全国産業安全大会が、(財)産業福利協会の主催により、1932(昭和７)年 11 月 21 日から３日間、東京・神田の学士会館で開催され、300 人を超える人たちであふれた。

盛況な第１回全国産業安全大会（昭和７年11月・東京・学士会館）

安全運動の先駆者・蒲生俊文の司会のもと、“同志が集う”会場には熱気があふれ、互いに手をとり合って安全運動を推進していこうとする連帯ムードが高まった。

大会の目的の一つである「連帯」は十分に果たされたが、それにも増して注目されるのは、その後ひたむきに継続されることとなる安全対策への「科学の導入」といえるものであった。

それは、「人間とは何か」にメスを入れ、人間の持つ弱点をカバーする方策に取組もうとする科学的姿勢が、企業の中に生まれつつあることを示したものだった。

◆　昭和 29 年、第１回『全国労働衛生大会』　東京で開催

1954(昭和 29)年 10 月 14、15 日の２日間、東京の読売ホールにおいて、全国から 1,300 人の主に労働衛生管理に携わる関係者が集い、第 1 回の全国労働衛生大会が開催された。

北は富士製鉄㈱室蘭製鉄所から南は旭化成㈱延岡工場まで、いずれも衛生管理の進んだ事業場からの発表であった。結核、鉛中毒、けい肺などの予防に関する報告が目立った。

◆　昭和 44 年に『安全大会』と『労働衛生大会』が一本化されて『全国産業安全衛生大会』に

全国産業安全衛生大会・総合集会

1967（昭和 42）年の東京大会は、労働基準法施行 20 周年記念大会として初めて安全、衛生両大会の合同開催となり、参加者は 13,000 人を数えた。

翌々年の 1969 年(昭和 44 年)には現在の「全国産業安全衛生大会」の原型が生まれ、内容を拡充するとともに「緑十字展」を盛大に開催することとなった。

2020（令和２）年、第 79 回札幌大会は新型コロナウイルス感染症拡大による影響による開催中止を余儀なくされたが、翌 2021（令和３）年の第 80 回東京大会は現地開催とオンライン配信を並行して開催。昨年の第 81 回福岡大会では現地開催を基本として、参加者にはオンデマンド配信専用コンテンツを提供するなど、コロナ禍を契機に時代のニーズに合わせた開催形式を取り入れた。

「緑十字展」も名古屋で併催

◆　緑十字展とは

安全衛生保護具、機械の本質安全化にかかる機器、職場環境・作業方法の改善機器、健康増進機器等の展示や装着体験セミナー等を通じて、職場の安全衛生を普及・促進し、労働災害の防止、働く人の心身両面にわたって健康で快適な職場環境づくりに関する安全と健康の最新情報と技術をご紹介するわが国最大の展示会である。

緑十字展のようす

◆　第 1 回緑十字展は昭和 43 年、　安全会館（東京都港区）で

1968（昭和 43）年 9 月 30 日から 10 月 7 日にかけて、東京都港区の安全会館および同会館前広場において、全国労働衛生週間にあわせて開催された。

翌 1969（昭和 44）年に名古屋市で開催された全国産業安全衛生大会から、毎年同時開催するようになり、現在に至っている。

墜落衝撃実験

安全衛生保護具体験道場

参考資料：「安全衛生運動史・安全専一から 100 年」（中災防発行）
「日本労働災害推進会のあゆみ」（日本労働災害推進会発行）